

## 古地図から読み解く江戸湊の発展 (その4)

■ 講師: 谷弘 たに ひろし

## 川船の登録と税の取り立てをした川船改番所

2024年4月27日(土) 14:00~16:00

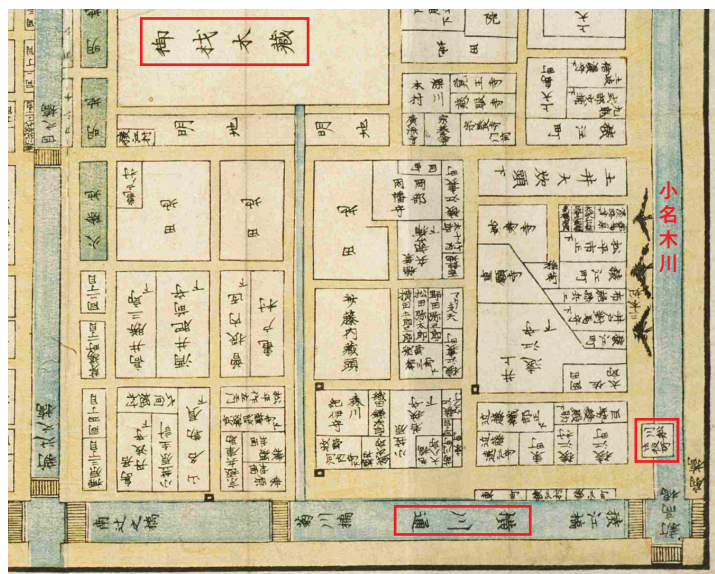
Zoomにて開催 (ルームオープン 13:30)

小名木川は、行徳塩を輸送するため、徳川家康が江戸に入府して一番に開いた水路である。しかし、江戸が発展するにつれて、銚子から利根川を遡り、関宿から江戸川を下って物資を江戸に運ぶ「内川回し」水路の一部として重要になった。小名木川の「中川船番所」は有名で、区立資料館まで設けられている。

しかし、東京都中央図書館が所蔵する「本所猿江亀戸村辺絵図」(1851)を拡大してよくよく見ると、小名木川と大横川交点の三つの橋近くに別の「川船改役所(番所)」がある。中川船番所が、箱根等と同様、「入り鉄砲に出女」取締関所の役割を持っていたのに対して、猿江船改番所は、勘定奉行に属し、川船奉行(川船改役)の出先機関として、水運業を営む船舶を管理するため、船の大きさを測り、川船年貢手形の発行や極印の検査を行うとともに、登録船から年貢・役銀を徴収していた。私も運輸省船舶局検査測度課で同じような仕事をしていたので、大変興味深い所である。



歌川広重「名所江戸百景 小名木川五本まつ」  
[東京都中央図書館蔵]



「本所猿江亀戸村辺絵図」(部分・赤色線と赤文字を加筆) [東京都中央図書館蔵]

## ■ 谷弘 (たに ひろし) 日本海事史学会会員

1963年海上保安大学校本科卒、同大研修科甲修了、海上保安庁、運輸省、総理府、科学技術庁等に勤務。運輸省運輸政策局技術安全課長、科学技術庁原子力安全局次長、国際原子力機関(IAEA)査察情報処理部長、海洋科学技術センター(JAMSTEC)特任参事、日本原子力研究所理事等を歴任。著書に「江戸の町造りと船」(文芸社)、「千石船の湊を訪ねて」(芸立出版社)、「海洋開発技術ハンドブック」(共著 朝倉書店)、「全面核実験禁止条約とその発効に向けた準備作業」(JAERI-Review)等。

● 関心をお持ちの方ならどなたでもご参加いただけます。  
メールでお申し込みください。

※希望者多数の場合は抽選とさせていただきます。  
お申込みいただいた方には4月24日(水)までご連絡いたします。

● 会員にはメールでご案内をお送りしています。  
メールが届いていない方は、右の申込先までお問合せください。

■ 申込〆切: 2024年4月23日(火) 正午(12:00)

■ 申込先: [kaijishi.web@gmail.com](mailto:kaijishi.web@gmail.com) (担当: 大野)

メールの件名を「日本海事史学会 Web 例会申し込み (非会員)」  
として、本文にはお名前をお書きください。

[今後の例会 開催予定日: 3月30日(土)・4月20日(土)・5月25日(土)]

日本海事史学会は、海事一般に関する歴史・法律・民俗・水産・考古・船舶・航海・海運など、海事史だけにとどまらず  
ひろく海の人文学、社会科学等あらゆる分野に関心を持つ学界や在野の研究者の方々の交流をはかる総合研究の“場”です。

【主な活動】専門学術誌『海事史研究』の発行(年1回) / 総会(年1回)・例会(8月と総会開催月を除く年10回) など

